

経営比較分析表／団体全体（令和元年度決算）

和歌山県

【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	227,860	大規模	3	118,792
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	96.8	35	155,800	非設置	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和元年度全国平均

分析欄

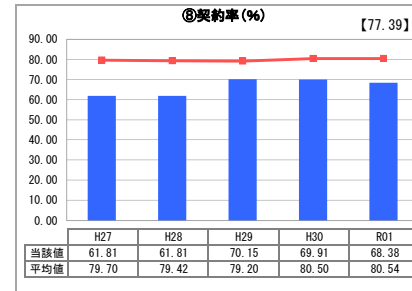
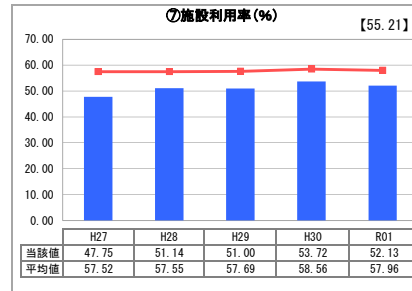
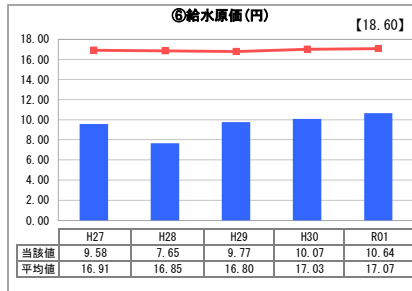
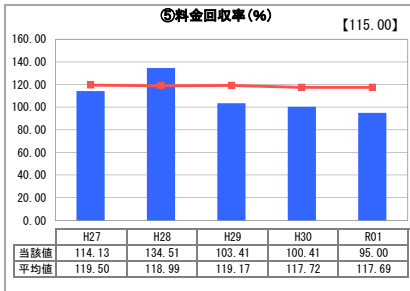
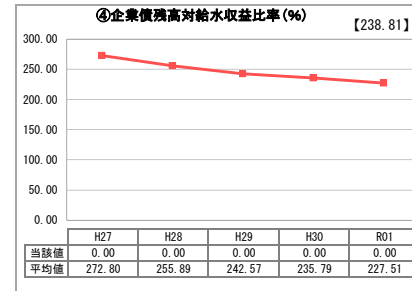
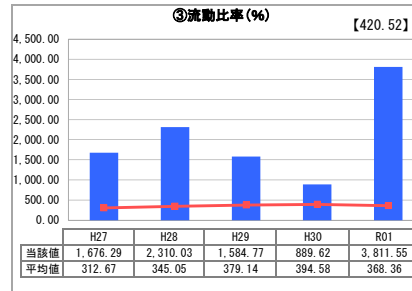
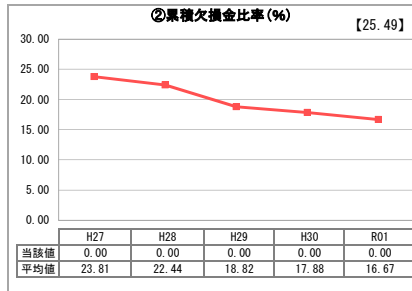
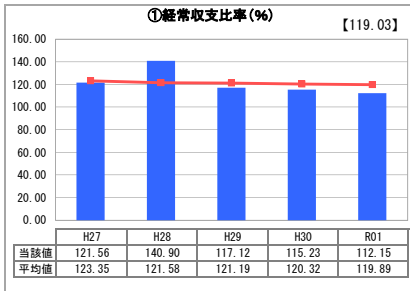
1. 経営の健全性・効率性について

累積欠損金及び企業債残高がないこと、流動比率が全国平均より高いこと、経常収支比率が100%を超えていることなどから、経営は健全であると考えられる。一方、平成29年度から令和元年度まで経常収支比率が緩やかに低下しているが、これは施設の老朽化対策工事及び耐震化対策工事による固定資産除却費増によるものである。また、流動比率における数値の変動は、主に年度末の工事費支払が当年度払か翌年度払かの違いである。

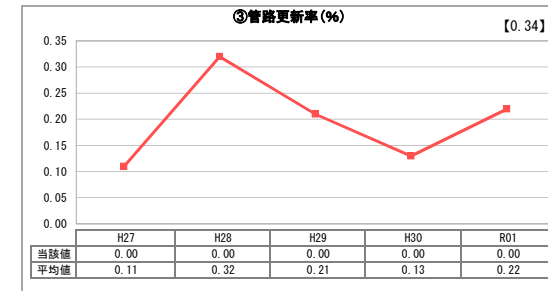
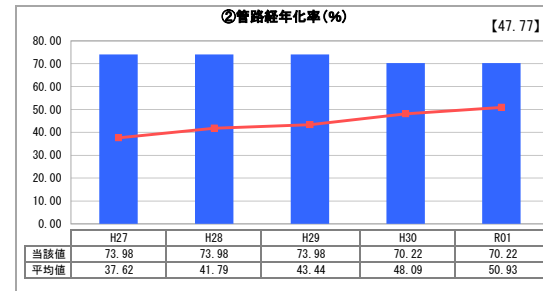
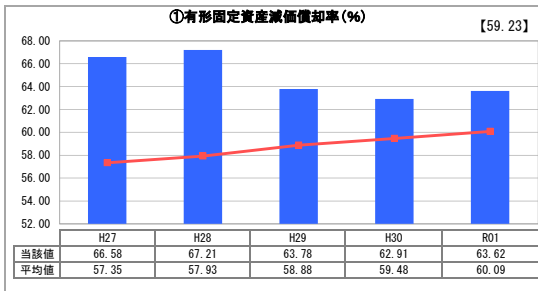
又、料金回収率については全国平均を下回る年もあるため、料金改定の検討を含め、今後経営改善を図っていく。

一方、契約率及び施設利用率は全国平均を下回っているため、新規ユーザー獲得に向けた取り組みを図っていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



全体総括

現在経営は健全と言えるが、今後、施設の老朽化(強靱化含む)に伴う更新が必須である。これを実施していくにあたっては、工事の優先度を定め、計画的に実施する必要がある。その際、事業継続の必要性や老朽化度合だけでなく工事期間中の固定資産除却費増、資産化後の減価償却費増を考慮しなければ、経営の安定化を損ねる可能性がある。

又、現状でも料金回収率が低下しているため、施設更新に伴い、料金改定も検討しなければならない。その際に継続的に施設の更新を行うためには資産維持費の導入も検討する必要がある。

一方、契約率及び施設利用率も全国平均を下回っているため、新規ユーザー獲得に向けた取り組みを図っていく。